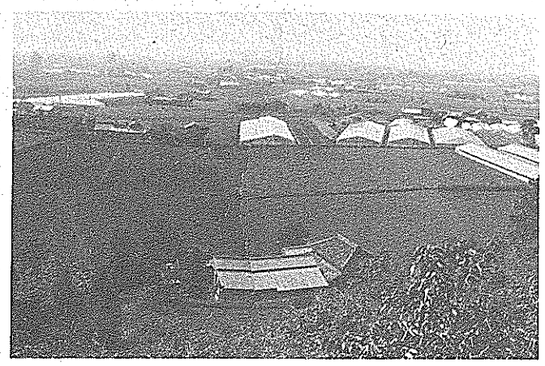
三富で大規模な基盤整備

21ヘクタールのほ場を整備

55年度完成　総事業費四億九千万円

国分川沿いの香南清掃組合ごみ焼却場東側――三富地区で、このほど第二次農業構造改善事業が実施さけることになり、十一月十八日、現地で〝ほ場〟整備の起工式が行われました。

この事業は、農地の区画整理や、農業の近代化を進めようというもので、全体計画の完成は五十五年の予定、関係農家の今後の営農に大きく役立つものと期待されています。



三富地区は約八十ヘクタールの水田地帯で、米、施設野菜、たばこ、早掘甘諸などの栽培が盛んです。しかし、農地が不整形で分散していることや、水路や道路の整備もいま一つというのが現状。

こうしたことから、農地の区画整理、水路や農道の整備などを行って、生産性を高めていこうと、関係農家の人たちが事業実施へと話し合いを進めていました。この事業には、農地の減歩（率は二～三パーセント）が伴うことや、排水関係などの多少の問題もありましたが、昨年地区指定、今年七月にほ場（農地）整備事業の認可を受け、このほど起工式となりました。

土地基盤整備として実施されるほ場整備は、月ノ木土地改良区（原徹昭理事長）によって、本年度十五ヘクタール、五十三年度六・二ヘクタールの合計二十一・二ヘクタールが計画されており、受益者は三十四戸。事業費は一億二千七百万円。この財源は、国の補助が五〇パーセント、県一〇パーセント、地元三〇パーセントとなっています。

具体的には、標準区画の三十アールに整備し、用水路や排水路、また農道の整備などを行い、生産性を高め、農家の増収を図っていこうというものです。

一方、この土地基盤整備（二年間で完了予定）とあわせて、五十三年度から三カ年計画で、農業近代化事業も実施される予定です。

近代化事業としては、野菜ハウス団地を建設するほか、稲作受委託組織の確立を図るために共同利用の水稲育苗施設、ライスセンター、農機具、格納庫などが整備される計画。これらの事業主体は、三富農興、南三富稲作受託組合、長岡農協など、事業費は三億六千二百万円。財源は、国の補助五〇パーセント、地元五〇パーセントとなっています。

こうした大規模なほ場整備は市内では初めてのことで、地元農家の人たちをはじめ、関係者から大きな期待が寄せられています。

農業構造改善事業計画

事業区分	事業種目	事業主体	受益戸数	事業内容および事業量	事業費	実施年度
土地基盤	ほ場整備	月／木土地改良区	34戸	ほ場整備　21.2ha	127,000千円	52.53
農業近代化	水田作協業施設	三富農興	18	農機具格納庫　1棟	3,000	55
				トラクター　2台	5,000	55
				田植機　2台	1,000	55
				コンバイン　2台	6,000	55
	水田作協業施設	南三富稲作受託組合	12	農機具格納庫　1棟	2,000	55
				トラクター　1台	2,500	55
				田植機　1台	500	55
				コンバイン　1台	3,000	55
	園芸団地造成	法人	14	野菜ハウス団地　2カ所	232,000	53.54
	水田作地域施設	長岡農協	80	水稲苗供給施設　1棟	8,000	54
	〃	〃	80	ライスセンター　1棟	46,000	55
農業近代化	野菜ハウス	個人	4	野菜ハウス	53,000	53.54
合計					489,000	

ミニ広報　首都圏と京阪神の事務職で慢性病を持っている人は68%。水虫、肩こり、痔が3大持病。

大湊小に10周年記念の門柱

一年生の手で除幕式

開校十周年を迎えた大湊小学校（岩原信守校長＝児童百六十人）で、十二月三日、門柱披露と記念の式典が行われました。

大湊小学校は、昭和四十二年六月一日に前浜小と南部小が統合、紀貫之の土佐日記ゆかりの〝大湊〟を校名に発足しました。

式典には、岩原校長、竹村保夫PTA会長、金校児童をはじめ、小笠原市長ら来賓、関係者が多数出席。十周年記念として建設された校門の前で、テープカット、一年生による門柱の除幕を行い母校の発展を祝いました。

この門柱の建設費は二十万円。大湊小学校にはこれまで校門がなく、父兄から「卒業生を正門から送り出してやりたい」という声が寄せられ、PTAが廃品回収やチャリティセールなどを行い、資金づくりを進めていたもの。

これに対し、六年生の中沢洋明くんが児童を代表して「ぼくたちの学校にも校門ができてほんとうにうれしい。これからも勉強にスポーツにがんばります」とお礼の言葉を述べました。

欧州行政視察を終えて②

市長　小笠原　喜郎

校長と担任と生徒

アヒーボアさんのサラリーとご主人の職業、サラリーを聞くことから始まった。彼女は表情も変える素振りも見せず淡々とお答えになり、給与体系について学歴、経歴による差等について詳しく説明してくれた。そして、彼女はすでに教員歴二十五年におよび、来年は二十六年になるので三〇パーセント以上も急上昇するのだともうれしそうである。さらに自分は市の職員であり、職員の中から選ばれて組織している委員会の重要な役員である。特に教員の利益を代表する一人である。先刻来の情熱的なお話もこれで理解できる。かなり地位の高い党人であろう。

この国ではこのような人のレクチュアを通訳する際は、ガイドが極度に緊張するのか、ガイドの青年が上がり気味になっていたわけがよくわかる。質問の趣旨がよくわからないことがあって、お答えが時々一般論になる。私はいくつかの質問の中で軍事訓練にふれてみた。この時アヒーボアさんはいっそう自を輝かして、胸をはってわれわれの祖国ロシヤ、現代社会で最も進歩している政治体制、共産主義を忠実に守るために義務教育過程の上級生に軍事訓練をやらせるのは当然である。そのためには特別の指導員制度がある。一行の中にはこの説明ぶりがやや意外であったのか頭をかしげる者もあったが、私には予想していた通りのお答えであった。この教育者が生二本の愛国者で、正直でまじめな公務員であり、党員としてもすばらしい人物だとうけとり、むしろすがすがしい感銘さえうけた。

校長のあとについて小学校下級生の教室に入る。生徒は三十名たらずである。担任の先生は校長のイメージとはうって変った慈母タイプの肥った年輩の女先生である。校長の姿を見るとすぐ丁寧におじぎをして心もち頭を下げて、教室の片すみから児童の態度を見守っている。校長が厳しいまなざしで生徒に直接質問する。生徒たちは元気に競って手を上げる。「何月何日は何の日ですか？」「はい、それは革命記念日です。」「何月何日は何の日ですか？」「はい、それはレーニンが何々を宣言した日です。」こんな調子であるが、担任の先生は終始黙っていてながめている。実習室にはモスコー大学工学部出身の若い担任がいて、旋盤の使い方を教えている。雨天体操場では体操とバレーのけいこをやっている。校長ご自慢の生徒の作った博物館がある。すすめられるままに入ってみると、驚いたことには周囲の壁に貼りつけてあるのは第二次世界大戦当時の記録写真を拡大したもので埋まっていた。対独戦のヤマ場を、スターリングラード攻防戦である。スターリンが「祖国ロシアを死守せよ！」と悲痛な電報を打ち、よく持ちこたえてドイツ軍を全面的に崩壊させた名誉ある戦勝記録である。（今は母なるボルガの名をとってボルボグラードとよばれスターリンの名は消されている。これも数日前から始まっているロシヤ革命六十周年記念行事の一つかとも考えてみる。

さて、ソ連の初等中等教育について公務の説明と参観をさせてもらったが、それは全豹の一斑にすぎないであろう。ここは首都モスコーである。校長は教師であるが権力者である。この学校は東京でいえば市内の一流模範校ではないだろうか。一歩地方へ足を踏み入れると制度通り、規則通りの教育の実施はできていないし、学力にも大きな差があると現地の人から聞いている。エリート教育もすでに制度的にも実施されているし、留年も上級に進むにつれて少なくない。広い国、二億五千万人の人口、それに軍事大国である。輸送網、通信網が必ずしも充分にゆきわたっていないこの国では、教育者の人数や予算の面から考えてもレベルの高い教育の普及は大変な大事業であろうと想像される。

それはさておき、二十一世紀の国民を胸にえがく熱列教師アヒーボア校長はご立派である。短時間ではあったがお近づきの印に二人でカメラにおさまって別れを告げた。

広報連絡委員さん来年もよろしく

市内三百十八人の広報連絡員のみなさん、今年一年どうもご苦労さまでした。次回の新年号は一月十日に発行します（一月は一回発行）。来年もよろしくお願いします。

広報委員会

ミニ広報　男子の体力のピークは17歳。45歳以上の体力は10年前に比べて10～18%もアップ。